

◇◇麻績村の教育環境の今後のあり方◇◇

# 上 申 書

平成22年3月30日

麻績村教育委員会

# 上 申 書

## 《 はじめに 》

自然豊かな環境と歴史文化の誇り高き麻績村において、少子高齢化と過疎化が進む中で、出生率の減少が深刻化している今、将来の子どもたちの学ぶべき教育環境のあるべき方向を的確に判断することが求められております。

平成21年3月に麻績村教育問題検討委員会を立ち上げて、特に保育園、小学校、中学校の今後の方向性に重点を置き、審議段階では多くの保護者の皆さんから意見を聞くなど熱心な検討が重ねられ、平成21年12月28日に答申をいただきました。

教育委員会におきましては、教育問題検討委員会からの答申内容を尊重し、村民皆様との懇談会を開催させていただき、意見交換の中で出されました多くの意見を真摯に受け止め、検討を深めさせていただきました。

ここに麻績村の将来を支える力強い子ども達を育てられる、教育行政の更なる推進をお願いいたしたく上申をさせていただくものです。

## I 保育園・小学校・中学校の今後の考え方

### 1. 保 育 園

教育問題検討委員会の答申においては、「現保育園を維持していくことが望ましい。」、しかし「園児数の急激な減少により、人間関係の広がりや個々の個性を成長させる友達との関わりなど、適正な保育環境が保てなくなった場合は、同じ課題を抱える隣村との懇談などを行う中で、より良い保育の方向について再検討することも必要がある。」との内容となっております。

保育園は子ども達が最初に家族から離れて、保育士や同年代の友達という別の集団形成の中で生活を送り、人と人との関わりや生活する力、そして学ぶ力を培う重要な時期と考えます。

また、子ども達は減少傾向にあるものの、共働きする保護者の増加や核家族化傾向により、0歳児から保育を希望する保護者が増えていることや、保育時間の延長、休日保育の実施など保育園に求められている課題は多様となっております。

ります。

これらの保育のあり方や施設運営の課題解決に向けては、保育士の各種研修への参加や交流事業の積極的な取り組みにより質の向上を図ると共に、保育士の適正な人員確保を行うなど保育環境の充実を望むものであります。

保育園の運営については、懇談会等でいただきました意見を総合的に検討させていただき、**当面は、現在の環境を維持していくことが望ましい。**

保育園児の急激な減少により適正な保育環境や効率的な保育園運営が保てなくなった場合は、課題解決に向けたより良い方向を再検討することを望みます。

① 今後の園児数の推計 (平成22年3月20日) (人)

年 度	年 長	年 中	年 少	0～2歳	計
平成21年度	17	18	13	14	62
平成22年度	18	13	13	12	56
平成23年度	13	16	13	10	52
平成24年度	16	15	15	9	55
平成25年度	15	17	9	9	50
平成26年度	17	10	9	8	44

・マーカーの部分は推計

② 近年の出生数 (人)

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度
出生数	16	15	17	10

## 2. 小 学 校

教育問題検討委員会からの答申は、「小学校の配置に対する考え方は、当面現環境が望ましい。」しかし、「筑北地域においては児童の減少傾向が続き、将来10人未満の学級が多くなることが心配されております。将来的に筑北地域として、統合の必要性が生じた場合は、麻績村と筑北村が目指す教育理念のすり合わせを行い、より良い方向へ検討を進めることを望みます。」との内容となっております。

小学校の現状においては、教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」を基本として、児童同士が切磋琢磨しながら学習意欲を養い、児童と先生のきめ細やかな対話も図られており、適正規模の大変良い教育環境が保たれていると思われ、**当面は、現在の環境を維持していくことが望ましい。**

将来に渡って児童数の減少傾向が予測され、増加することが望めない状況においては、同じ課題を抱える筑北村との教育理念のすり合わせを行い、両村の考え方を尊重しつつ筑北地域の教育のあり方について審議を深めることも重要と考えられます。

① 麻績小学校児童の推移 (5年間) (H22.3.20現在) (人)

年度	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	合計	学級数
21	22	22	30	24	19	26	143	6(+特支)
22	17	22	22	30	24	19	134	6(+特支)
23	18	17	22	22	30	24	133	6(+特支)
24	13	18	17	22	22	30	122	6(+特支)
25	16	13	18	17	22	22	108	6(+特支)
26	15	16	13	18	17	22	101	6(+特支)

・教員配当数(校長1、教頭1、担任6、専科1 9名)

②麻績小学校と坂井小学校が統合した場合の現状(平成26年度の場合)(人)

\*麻績小・坂井小の2校統合の場合

項/学年	1	2	3	4	5	6	合計
人数	23	27	21	29	30	35	165
内坂井小	8	11	8	11	13	13	64
学級数	1	1	1	1	1	1	6(+特別支援)

・教員配当数(校長1、教頭1、担任6、専科1 9名)

※教員配当数については、統合しても配当数に変わりはありません。

### 3. 中学校

教育問題検討委員会の答申では、「麻績村、筑北村の組合立である筑北中学校と聖南中学校が統合することについては、合意が整えば統合する方向が望ましい。」との内容となっております。

中学校課程においては、大勢の人間関係の中で切磋琢磨されることが、逞しく思いやりある人間性を養い、自己責任、自己決断できる責任感ある生徒が育成されると思われま。

また、職員配当数が少なく教科学習全てを指導する教員の確保が難しいことや、部活動の選択肢が少なく生徒の希望がかなえられないことなどの課題解決も図られ、質の高い教育環境の充実が確立できると思われま。

検討する段階においては、現状維持が望ましいとの声もありましたが、今後、附属中学や中高一貫校に進む子ども達が増え、生徒の減少も心配されることなども総合的に検討させていただき、**両村関係者が統合に向けて歩み寄り、協議を深めていただくことを望みます。**

① 筑北中学校生徒の推移 (麻績小学校・坂井小学校の5年間) (人)

年度	1学年	学級数	2学年	学級数	3学年	学級数	人数合計	学級数計
21	36	1	38	1	40	1	114	3
22	41	2	36	1	38	1	115	4
23	34	1	41	2	36	1	111	4
24	45	2	34	1	41	2	120	5
25	46	2	45	2	34	1	125	5
26	30	1	46	2	45	2	121	5

(H22.3.20現在)

②麻績小学校と坂井小学校の現状 (平成26年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合計
人数	30 (8)	46 (16)	45 (21)	121 (45)
学級数	1	2	2	5 (+特別支援)

・( )内は坂井小学校の生徒数

・教員配当数 (校長1名、教頭1名、担任5、専科3名 10名)

③ 筑北・聖南中学校が統合した場合の現状 (平成26年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合計
人数	52 (22)	79 (33)	72 (27)	203
学級数	2	2	2	6 (+特別支援)

・( )内は聖南中学校の生徒数

・教員配当数 (校長1、教頭1、担任6、専科3 11名)

④ 筑北中学校 麻績小学校単独の場合 (平成26年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合計
人数	22	30	24	76
学級数	1	1	1	3 (+特別支援)

・教員配当数 (校長1、教頭1、担任3、専科4 9名)

## Ⅱ 小中一貫校と教育の一貫性

### 1. 小中一貫校

小中一貫校につきましては、教育問題検討委員会でも内容について研究がされてきましたが、まだまだ課題も多く、今後、筑北地域全体の教育環境を考える中で、効率的な学校運営を進める上で望ましいと考えられるときは、審議の対象として調査研究を深めて見ることも選択肢と考えられます。

### 2. 教育の一貫性

教育の一貫性については、現在は乳幼児や保育園児の幼児期の子育て教育と、小学校、中学校の義務教育課程における教育については、国の行政組織の違いから、対応する役場組織がそれぞれ違っており、子ども達の情報継続性や教育の一貫性に課題があると考えます。

幼児期から中学校まで子ども達一人ひとりの基礎的な力を養い、個性豊かな心身ともに逞しい育成を図るには、教育方針の一貫した取り組みが重要な視点になると思われまます。

また、近年特別な支援を要する子ども達も増えている傾向にあり、乳幼児の段階で子どもの成長における変化を理解し、家庭そして支える組織が情報を共有して、子どもの個性を尊重しながら必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことにより、個人として、社会の一員として生きる基盤を育てることが大切と考えます。

今後、幼児期から子ども達の発達や学びの連続性という観点から、支援や教育が途切れることなく一貫してできる、横の繋がりを持った行政組織の充実か、一元化できる組織の再編を推進する必要があると考えます。

## Ⅲ 全体を通しての付帯意見

村民皆様との懇談会の中や、子育てに携わる保護者の皆様からいただいた意見の中には、少子高齢化や過疎化に歯止めがかからない現状を踏まえて、魅力ある村づくりに向けた各種事業の積極的な展開を望む声も多く出されましたが、「子育て支援や教育環境が充実した村」そして、「そこに住んでみたくなる麻績村」の実現に向けて手厚い各種政策の推進を図っていただきたいと考えます。

今後、学校の統合等により新たに生じる課題については更に深く掘り下げて

検討を行い、子ども達が安心して安全に日々の教育が享受できる環境の充実が図られることを望みます。

また、今まで教育委員会では「麻績村の教育環境の今後のあり方」について、財政的問題や学校配置に伴う場所的問題等には触れずに真の教育環境だけを考へて検討を重ねて参りました。今後筑北地域の教育のあり方について筑北村との協議も関係者により進められると思われませんが、協議内容については、村民にこまめな情報の提供をするとともに、機会をとらえて幅広く村民の意見を聞くなど、十分理解を深めて協議を進めていただくことを望みます。

## 《 あとがき 》

将来の子ども達の教育環境の今後のあり方について、平成21年3月に教育問題検討委員会を立ち上げて審議を始め、1年間という中での審議や検討でしたが、村民皆様との懇談会の中でいただいた多くの意見を真摯に受け止め検討を深めさせていただきました。

また、麻績小学校や筑北中学校を含めた筑北地域の学校の配置等について、先行して検討が行われ、筑北村教育委員会でまとめられた「筑北村教育のあり方」の上申内容も視野に入れながらの検討となりました。

教育の発展なくして村の持続的な発展はないという考えから、自然豊かな環境のもとに、乳幼児から一貫して明るく伸び伸びと心豊かで逞しい子ども達の教育が享受できる教育環境の充実に向けた、「麻績村の教育環境の今後のあり方」について上申書として方向性を出すことができました。

今までの審議や検討に際しまして、教育問題検討委員の皆様、子育てに携わる保護者の皆様、村民の皆様等多くの皆様方にご理解ご協力いただきましたことに、心より感謝と御礼を申し上げます。

今後、「子育て支援や教育環境が充実した村」そして、「そこに住んでみたくなる麻績村」の実現に向けて、教育行政の更なる推進にご期待申し上げ、併せて当教育委員会へのご支援ご協力をお願い申し上げます、当局への上申とさせていただきます。

平成22年3月30日

麻績村教育委員会